



日本植物分類学会

ニュースレター

No. 1

May 2001

目 次

日本植物分類学会設立総会の報告	2
日本植物分類学会会則	4
植物分類地理学会（旧学会）2001年度会計決算報告	8
日本植物分類学会（旧学会）2001年度会計決算報告	9
新学会2001年度会計予算	10
会長および評議員選挙公示	11
学会費納入のお願い	12
和文誌創刊のお知らせと投稿のご案内	12
野外研修会をふりかえって	15
新学会ロゴのお知らせ	17
日本植物分類学会選挙人名簿	18
会員消息	26

日本植物分類学会設立総会の報告

庶務幹事代理 永益英敏

日本植物分類学会設立総会および設立記念国際シンポジウムが、5月12日(土)および13日(日)に、京大会館(京都市左京区吉田河原町15-9)で開催されました。参加者総数は141名でした。

総会 2001年5月12日(土)15:50-16:50

議長 渡邊邦秋(神戸大・理)

議事

1. 日本植物分類学会会則が満場の拍手をもって採択され、日本植物分類学会が成立しました(本誌4-7ページをご参照ください)。同時に植物分類地理学会および(旧)日本植物分類学会は解散したことになります。
2. 選挙によって会長および評議員が選出されるまでの、学会役員が以下のように承認されました。事務統合を円滑に進めるため、新学会の母体となった両学会の役員が、暫定的に役員を務めます。任期は2001年5月12日より6月30日までです。監事については議事5をご覧ください。

会長 福岡誠行(会長代理 加藤雅啓)

評議員 伊藤元己, 植田邦彦, 梅原 徹, 岡本素治, 角野康郎, 北川尚史,
小菅桂子, 副島顕子, 田村 実, 永益英敏, 野口順子, 野崎久義,
藤井伸二, 村上哲明, 村田 源, 邑田 仁, 渡邊邦秋

庶務幹事 秋山弘之(庶務幹事代理 永益英敏)

会計幹事 高橋 晃(会計幹事代理 加藤英寿)

ニュースレター担当幹事 西田佐知子(ニュースレター担当幹事代理 根本智行)

編集委員長 岡田 博(編集委員長代理 伊藤元己)

()は会則第14条(1)-(4)の担当委員

3. 2001年度(5月12日~12月31日)の活動計画は次のように承認されました。今年度は期間が短いので、和文誌およびニュースレターの発行は通常年度の予定回数よりもそれぞれ1回少なくなっています。
 - ・設立総会ならびに記念シンポジウムの開催
 - ・会長、評議員選挙の実施と新執行部体制の発足(7月1日以降)および事務引継
 - ・学会誌の発行(英文誌2回, 和文誌1回)

- ・ニュースレターの発行（3回：5, 8, 11月）
- ・野外研修会の開催 秩父 7月20日～22日
- ・関西地区での講演会（時期、内容については福岡会長に一任）
- ・植物分類学関連学会合同名簿の発行

学会誌およびニュースレターの体裁について、岡田編集委員長、西田ニュースレター担当幹事より説明がありました*。

4. 2001年度予算案が承認されました（本誌10ページをご参照ください）。
5. 監事2名が以下のように選出されました。任期は2001年5月12日より2002年12月31日までです。
監事 栗林 実, 高橋 弘
6. 学会のロゴマークが提案され、承認されました。トガクシソウを図案化したものです（本誌17ページをご参照ください）。

報告

1. 選挙管理委員長に鈴木 武氏が指名されました。
2. 選挙日程は次の通りです。
6月15日 投票締切
6月20日 開票
3. 次回の大会は東京（国立科学博物館）で開催されます（3月15-17日を予定）。開催時期は大学入試や他学会の大会と重ならないよう配慮してほしいという意見がありました。
4. 国際植物分類学連合(IAPT)により2004年にアジアで開催が検討されている、IAPT2004シンポジウムについて加藤会長代理より説明がありました。日本植物分類学会として積極的に取り組みたいので、会員みなさまに協力をお願いしたいということです。
5. 学会誌への積極的な投稿が呼びかけられました。投稿規定は本誌(13-14ページ)に掲載されています。

*総会時、ニュースレターのタイトルを「JSPS Newsletter」にしたいと報告しましたが、このタイトルは日本学術振興会のニュースレタータイトルとかち合ってしまうため、「日本植物分類学会ニュースレター」に変更しました。ご了承ください。

「日本植物分類学会」会則

- 第1条 本会は、「日本植物分類学会」(英名 The Japanese Society for Plant Systematics) と称する。
- 第2条 本会は、植物分類学の研究の進展と知識の普及を図り、もって学術の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会に、総会の承認を経て、支部を設けることができる。
- 第4条 本会は、第2条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- (1) 学術集会、講演会、講習会等の開催
 - (2) 英文雑誌、和文雑誌(以下、学会誌)、その他ニュースの出版物等の刊行
 - (3) 調査及び研究
 - (4) 調査及び研究の業績の表彰、その他調査及び研究の奨励
 - (5) 国内外の関係学術団体との連携及び協力
 - (6) その他、第2条の目的を達成するために必要な事業
- 第5条 本会の会員とその権利は、次のとおりとする。
- (1) 通常会員 本会の目的に賛同する個人
 - (2) 団体会員 本会の目的に賛同する団体
 - (3) 賛助会員 本会の目的に賛同し、その活動を援助する個人及び団体
 - (4) 名誉会員 本会(旧日本植物分類学会ならびに旧植物分類地理学会を含む)に50年以上在籍した通常会員、または植物分類学の発展に著しい功績のあった個人で、評議員会の議を経て会長が推薦するもの
- 第6条 会員(名誉会員を除く)になろうとするものは、会費を添えて所定の入会申込書を提出し、会長の承認を得なければならない。
- 第7条 会員は、別に定める会費を納入しなければならない。
- 2 納入された会費は、返付しない。
- 第8条 会員は、次の事由によって会員資格を失う。
- (1) 退会したとき
 - (2) 死亡し、または会員である団体が解散したとき
 - (3) 除名されたとき
- 第9条 会員が退会しようとするときは、会長に届け出なければならない。この場合、会費の滞納があるときは、未納額を納めなければならない。
- 第10条 会員が次の各号のどれかに該当するときは、評議員会の議決を経て、会長はこれを除名することができる。
- (1) 本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあったとき
 - (2) 会費を1年以上滞納したとき

第11条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長1名
- (2) 幹事若干名
- (3) 評議員約12名
- (4) 編集委員長1名
- (5) 監事2名

第12条 役員は、会員である個人の中から、別に定める選出の規定により選出する。

2 役員は、相互に兼任することはできない。

第13条 本会の役員の任期は、2年とする。

2 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 役員は、再任されることができる。ただし、引き続き4年を超えて同じ職に在任することはできない。

第14条 役員は、以下の職務を遂行する。

- (1) 会長は、会務を総括し、本会を代表する。
 - 2 会長に事故があるときは、予め会長が指名した会員が、会長の職務を代行する。
 - 3 会長は、必要に応じて、特定の事項を審議する委員会を設けることができる。
 - 4 会長は、必要に応じて、特定の事項を担当する委員（担当委員）を委嘱することができる。
- (2) 幹事は、本会の庶務、会計、ニュースの編集発行、その他の日常の会務を担当する。
- (3) 評議員は、評議員会を構成し、会長の諮問に応じて会務の重要事項を審議する。
- (4) 編集委員長は、編集委員会を主宰し、学術雑誌の編集に関する会務を処理する。
- (5) 監事は、本会の財産と、幹事の職務執行の状況を監査する。

第15条 総会は、会長が召集し、第5条(1)と(4)の会員をもって構成する。

2 通常総会は、毎年1回これを開催する。

3 臨時総会は、会長が必要と認めたとき、または会員の3分の1以上若しくは監事から請求があったときに開催する。

第16条 評議員会は、会長が必要と認めたとき、または評議員の3分の1以上から請求があったときに開催する。

2 評議員会は、評議員の過半数の出席がなければ開会することはできない。ただし、委任状を提出した評議員は出席者数に加える。

3 会長は評議員会の議決に加わる。

第17条 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり12月31日に終わる。

第18条 この会則は、総会において出席者の3分の2以上の同意を得なければ変更できない。

第19条 本会の事務を処理するため、事務局を置く。事務局は庶務担当幹事が主宰する。

第20条 この会則施行についての細則は、評議員会、総会の議決を経て、別に定める。

- 附則 1. 本会の設立当初の役員は、第12条の規定にかかわらず、総会において選出する。その任期は、第13条の規定にかかわらず、監事を除き2001年6月30日までとし、監事の任期は2002年12月31日までとする。
2. 本会の最初の選挙による役員の任期は、第13条の規定にかかわらず、2001年7月1日から2002年12月31日までとする。
3. 本会の設立当初の会計年度は、第17条の規定にかかわらず、2001年5月12日から2001年12月31日までとする。

附則 本会則は2001年5月12日より実施する。

会員の権利と会費についての細則

第1条 会員は、次に掲げる権利を有する。

- (1) 定期刊行の学会誌およびニュースレターの無料配付を受けること
- (2) 本会主催の大会等において学術報告を行うこと
- (3) 本会主催の行事に参加すること
- (4) 本会所有の図書を閲覧すること
- (5) 投稿規定に従って、学会誌に投稿すること
- (6) 本会役員の選挙権及び被選挙権をもつこと

2 前項の規定にかかわらず、団体会員および賛助会員は(1)の権利のみを有する。

第2条 本会の会費は、次のとおりとする。

(1) 通常会員 年 5,000円

ただし、

学生の場合 年 3,000円

海外在住の外国籍会員の場合 年 3,000円

とする。

(2) 団体会員 年 8,000円

(3) 賛助会員 年 1口20,000円

2 名誉会員は、会費の納入を必要としない。

3 会員に災害などのやむを得ない事態が生じた場合には、評議員会の承認を得て、会長は会費の納入を減免することができる。

4 会員(名誉会員を除く)は、会費を前年12月末日までに納めなければならない。

附則 本細則は2001年5月12日より実施する。

役員等の選出についての細則

第1条 本会役員等の選出は、この細則によるものとする。

2 会長、評議員の選出にあたって、会長は選挙管理委員長および委員若干名を指名する。

第2条 会長は、会員の選挙により選出する。

2 選挙は会員の郵送投票により、最多数の得票を得た会員を当選者とする。

3 複数の会員が最多の同票数を得た場合は、抽選によって当選者を定める。

第3条 幹事ならびに担当委員は、会長が委嘱し、総会に報告する。

第4条 評議員は、会員の郵送投票により8名を選出し、選出された評議員により約4名の評議員を、得票数を参考に、分類群、地区の均整などを考慮して追加指名する。

第5条 編集委員長は、会長が委嘱し、総会に報告する。

2 編集委員は、編集委員長が推薦し、会長が委嘱して、総会に報告する。

第6条 監事は、総会で選出する。

2 評議員会は、監事の候補者を総会に推薦することができる。

附則 本細則は2001年5月12日より実施する。

学会賞についての細則

第1条 日本植物分類学会賞(以下、学会賞)は、調査および研究業績を通して、本会の発展にめざましい貢献をなした会員を顕彰する。

第2条 学会賞は、自薦、他薦を問わず推薦された会員の中から、学会賞審査委員会により選ばれた者に授与する。

第3条 学会賞審査委員会は、会則第14条(1)の3に準じて設け、若干名の委員により構成する。

第4条 受賞者は総会で表彰され、記念講演発表を行うことができる。

附則 本細則は2001年5月12日より実施する。

植物分類地理学会 2001年度(5月まで)決算報告

	予算	決算	予算との差
<u>収入</u>			
前年度繰越金	4,842,725	4,842,725	0
会費 未収金			
一般会員	300,000	335,130	-35,130
購読会員	330,000	326,000	4,000
別刷り	180,000	139,080	40,920
バックナンバー-販売	0	1,682,000	-1,682,000
利息	300,000	333,935	-33,935
雑収入	0	9,437	-9,437
小 計	1,110,000	2,825,582	-1,715,582
合 計	5,952,725	7,668,307	-1,715,582
<u>支出</u>			
印刷費			
分類地理印刷費 51(2)	1,000,000	904,645	95,355
別刷り・カラー印刷費	180,000	81,795	98,205
会報印刷費	150,000	181,371	-31,371
封筒印刷	0	23,649	-23,649
送料・通信費	400,000	371,180	28,820
事務費			
書籍等引越代	100,000	0	100,000
消耗品ほか	100,000	30,724	69,276
総会費			
講演会費	100,000	98,000	2,000
補助費	80,000	80,000	0
会議費	30,000	20,500	9,500
編集費	50,000	10,300	39,700
手数料・その他	10,000	2,310	7,690
予備費	0	190,000	-190,000
記念事業費 (Index)	2,300,000	2,466,405	-166,405
シンポジウム	500,000	500,000	0
小 計	5,000,000	4,960,879	39,121
移行準備金	952,725	2,707,428	-1,754,703
合 計	5,952,725	7,668,307	-1,715,582

日本植物分類学会2001年度(5月まで)決算報告

通常会計		予算	決算	予算との差
収入	前年度繰越金	1,753,533	1,753,533	0
	会費	0	496,000	-496,000
	利息	3,000	1,121	1,879
	小計	3,000	497,121	-494,121
	合計	1,756,533	2,250,654	-494,121
支出	印刷費	360,000	342,563	17,437
	印刷物発送費	230,160	249,810	-19,650
	大会補助費	0	100,000	-100,000
	会議費	20,000	18,000	2,000
	会報・ニュースレター編集費	42,000	56,000	-14,000
	庶務費	128,000	21,705	106,295
	雑費	15,000	1,350	13,650
	予備費	961,373	1,461,226	-499,853
	合計	1,756,533	2,250,654	-494,121
特別会計		予算	決算	予算との差
収入	前年度繰越金	2,006,480	2,006,480	0
	寄付	0	140,000	-140,000
	利息	2,000	1,283	717
	小計	2,000	141,283	-139,283
	合計	2,008,480	2,147,763	-139,283
支出	シンポジウム経費	500,000	500,000	0
	雑費	0	420	-420
	予備費	1,508,480	1,647,343	-138,863
	合計	2,008,480	2,147,763	-139,283

新学会2001年度会計予算

通常会計				分類地理	分類学会
収入	設立準備金			4,168,654	2,707,428
	会費				1,461,226
	一般会員	5,000	700	3,500,000	
	学生会員	3,000	80	240,000	
	購読会員	8,000	50	400,000	
	別刷り	180,000	2	360,000	
	バックナンバー販売			50,000	
	利息			0	
	雑収入			50,000	
	小計			4,600,000	
	合計			8,768,654	
支出	印刷費				
	APG印刷費 52(1・2)	1,000,000	2	2,000,000	
	別刷り・カラー印刷費	180,000	2	360,000	
	和文誌印刷費	400,000	1	400,000	
	ニュース印刷費	60,000	3	180,000	
	封筒等印刷費			150,000	
	送料・通信費				
	APG送料	110	2,000	220,000	
	和文誌送料	120	1,000	120,000	
	ニュース送料	110	3,000	330,000	
	その他小包など			200,000	
	事務費				
	消耗品費			50,000	
	アルバイト賃金			50,000	
	自然史学会連合分担金			20,000	
	総会費				
	会場補助費			0	
	会議費			130,000	
	編集費			180,000	
	手数料・その他			30,000	
	予備費			300,000	
	合同名簿分担金			200,000	
	小計			4,920,000	
	次年度への繰越			3,848,654	
	合計			8,768,654	
特別会計					分類学会
収入	前年度繰越金			1,647,343	1,647,343
	預金利息			1,000	
	合計			1,648,343	
支出	次年度への繰越金			1,648,343	
	合計			1,648,343	

会長および評議員選挙公示

選挙管理委員長 鈴木武

日本植物分類学会の発足に伴い、学会会則12条及び役員等の選出についての細則にもとづき、会長及び評議員の選挙を下記のとおりにおこないます。公示から投票までが短い期間となりますが、選挙で選ばれた新体制を速やかに発足させるための処置とご了解ください。

会長、評議員の選挙は、当学会の運営はいうまでもなく日本の植物分類学の将来に大きく係わることがらです。会員諸氏には期日までもれなく投票を済まされますよう、強く要望します。

選挙実施細目

1. 新学会としてのはじめての選挙となりますので、被選挙権のない方はおられません。
2. ニュースレターに綴じ込まれている選挙人名簿をご覧の上、同封の会長選挙投票用紙（桃色）に会長候補者1名を、評議員選挙投票用紙（緑色）に評議員候補者8名以内をそれぞれ記入し、同封の投票用小袋に入れたうえで、同封の封筒を用いて郵送してください。封筒には住所・氏名をお書き下さい。封筒が同封されていないか、あるいは紛失した場合には、「会長・評議員選挙投票用紙在中」と朱書きの上、下記宛にお送り下さい。なお、投票用紙の再発行はいたしません。
3. 投票締切 平成13年6月15日（同日消印のものまで有効）
4. 開票日 平成13年6月20日（予定） 会員2名以上の立ち会いのもとに開票します。会員は開票に立ち会うことができます。開票立ち会いを希望される会員の方は、開票日時、開票場所の詳細を追って連絡いたしますので、選挙管理委員長までご連絡下さい。
5. 規定の数を超えて候補者名を書いたものはその票そのものが、また会員外の候補者名を書いたものは会員外の部分のみが無効となります。
6. 同姓、あるいはよく似た名前の会員がおられます。投票に当たっては、同封の選挙人名簿をご参照の上、氏名を略さずにお書き下さい。

送付先

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6

人と自然の博物館気付

日本植物分類学会選挙管理委員長 鈴木武

学会費納入のお願い

会計幹事 高橋 晃

新学会「日本植物分類学会」の今年度（2001年度）会費を納入いただく時期となりました。下記のとおり郵便振込にてご入金ください。

旧学会で2001年度分まで納入済みの方は、その分を新学会の会費に移行させていますので、納入いただく必要はありません。旧植物分類地理学会員の方は、振込口座が変わりましたのでご注意ください。旧日本植物分類学会員の方は、会費金額が異なりますのでご注意ください。

一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円です。

口座番号：00120 - 9 - 41247

名 義：日本植物分類学会

新学会の円滑な運営は、ひとえに会員皆様からの会費納入にかかっておりますので、よろしくご協力お願いいたします。

和文誌創刊のお知らせと投稿のご案内

和文誌編集担当 秋山弘之

すでに会員の皆様にはお知らせしてまいりましたように、新学会設立に伴い、和文誌「分類：日本植物分類学会誌」と英文誌「APG: Acta Phytotaxonomica et Geobotanica」の2つの学会誌が創刊されます。選挙で選ばれた体制が7月に整うまでの期間、暫定的に和文誌編集を担当いたしますので、よろしく御願いたします。

和文誌では、和文による原著論文や総説、新産地報告を掲載すると共に、解説記事や他雑誌に掲載された分類関係の論文の紹介、資料的意味合いの強い報告、学位論文の抄録、観察会の記録など、幅広い分野の記事を掲載してゆく予定です。

会員の皆様には、この和文誌を情報交換の場として、あるいはひろく分類学を世に普及してゆくためにも、数多くの原稿をお寄せ下さるよう御願いたします。当初の予定では、創刊号を今年11月に発刊することになっておりますが、7月までに原稿をお寄せ下されば、創刊号への掲載が可能です。ふるって御投稿ください。

投稿規定については、和文誌に毎号掲載いたしますが、まだ創刊されておられません関係上、現在投稿をお考えの皆様の便宜を考慮してここに掲載いたしますので参考にしてください。なお細部については変更になる場合があるかもしれませんが、ご了承下さい。

原著論文と総説は体裁が整っていることが大切ですが、その他のものについては堅苦しく考えずに、野外観察で得た新知見や新産地報告など、どんな情報でも結構ですのでご投稿いただければ幸いです。

和文投稿規定

日本植物分類学会誌「分類:Bunrui」は、広く植物分類学の普及と研究の発展に寄与するために発行され、本学会会員が投稿できます。「分類:Bunrui」には、植物分類学に関連した和文の原著論文、総説、解説、新産地報告、調査報告、資料、採集会記録、学位論文抄録、他雑誌の論文紹介、他団体の活動紹介などを掲載します。

投稿される原稿は、以下の要領に従って作成してください。規定に沿っていない原稿は、審査を受けることなく著者に返却されます。

作成された原稿は、和文誌編集担当者宛にご送付下さい。

1. 原稿は400字詰めA4原稿用紙に横書きとします。ワープロおよびコンピューター用ソフトを使う場合は、A4版用紙の表側だけを使い、1行40字のダブルスペース(1頁約30行)を基本としてください。英文要旨は、A4版用紙に1行65字を標準とします。
2. 投稿に際しては、原稿(図表、写真を含む)の正本1部と共に、原著論文の場合は副本(コピー)2部を、その他の場合は副本1部を送付してください。副本の図(線画)と表については白黒ゼロックスコピーで結構ですが、写真は細部が明瞭に判読されるものをご用意ください。写真の白黒ゼロックスコピーは受け付けません。
3. 原稿は、図表などを含めて、原著論文、総説、解説、資料の場合は、刷り上がり16頁以内、その他は4頁以内におさめてください。超過分は著者に負担を求めることがあります。大幅に超過する場合は、原稿送付前に和文誌編集担当者にご相談下さい。
4. 原稿を送付する際には、原稿とは別に送り状を添えてください。送り状には、次の事柄を明記してください。
 - a. 著者名
 - b. 原稿に関する連絡先: 氏名、住所、電話番号、もしあれば所属先とe-mailアドレス
 - c. 表題
 - d. 原稿の枚数: 本文、図の説明文、図表、図版のそれぞれについて枚数を記入。
 - e. 見出し表題(ランニングタイトル): 著者名(姓のみ)を含めて25字以内。
5. 原稿の内容は、原著論文については以下の順に配列してください。その他の原稿に英文要旨・キーワード(英文)は必須ではなく、配列についてもこの限りではありません。
 - a. 第1頁: 表題、著者名、住所(あれば所属も)。それぞれに英文表記を添えてください。
 - b. 第2頁: 英文要旨およびキーワード(英文)。英文要旨は200語以内、キーワードは7語以内で、ともに本文の内容を簡潔に表したものとします。
 - c. 本文は第3頁からはじめます。序論、材料と方法、結果、議論、謝辞の順が一般的です。序論と謝辞の見出しはつけません。本文中の数字と単位記号は、漢数字をのぞいて半角です。本文中の文献の引用は、「Matsumura and Hayashi (1912,

1956)、Matsumura et al. (1897)、木村・高橋 (1899, 1914)、本村ら(1978)」とします。括弧は半角です。

d . 引用文献：外国語文献については英文誌「APG」に準拠します。和文文献については、ABC順に以下の要領で記載してください。

北村四郎 . 1934 . 東亜産アザミの分類および分布 . 植物分類地理 3: 1-14 .

島地謙・須藤彰司・原田浩 . 1976 . 木材の組織 . 291 頁 . 森北出版 . 東京 .

6 . 図表は以下の要領で準備してください。

a . 写真はしっかりした白地の台紙に貼り付ける。

b . 図表の余白または裏に、著者名・図表の番号・天地・希望する縮尺を明記する。

c . 図表は刷り上がりで幅 12 cm、長さ 18 cm が最大です。原図（写真を含む）のサイズは刷上りと同一サイズかそれよりも大きくなければなりません、A4サイズを超える原図はなるべく避けてください。

d . 図の説明は、図とは別にひとまとめにしてください。

e . 図表の挿入を希望する位置を、原稿の右余白に指示してください。

f . カラー図版を掲載する場合には、別途定める費用を著者に負担していただきます。

7 . 投稿された原稿は、原著論文については2名の審査員、それ以外の原稿は1名の審査員によって審査されます。審査結果は著者連絡先に通知されます。

8 . 原稿の採否、掲載順序は編集委員会が決定します。著者による図表の位置、縮尺の指定および活字の指定は同委員会によって変更されることがあります。

9 . 著者校正は初校のみです。再校以降は編集委員会がおこないます。校正の段階で文章等を変更した場合、その経費は著者負担とします。

10 . 別刷りは50部が無料です。50部を超える部数については有料となります。初校とともに申し込み用紙・料金表をお送りしますので、別刷りを希望される方は、必要部数をご記入のうえ修正原稿と一緒にご返送下さい。

11 . 本誌掲載のすべての論文・記事等の著作権は、日本植物分類学会に帰属します。掲載にあたって、著者は著作権を移譲する旨の書類を日本植物分類学会に提出していただきます。

投稿・問い合わせ先

〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目

兵庫県立人と自然の博物館

植物分類地理学会 秋山弘之（和文誌担当）

Phone 0795-59-2012, Fax 0795-59-2019

e-mail:akiyama@nat-museum.sanda.hyogo.jp

野外研修会をふりかえって

この度日本植物分類学会と植物分類地理学会とが統合して、新しく「日本植物分類学会」となり、2001年5月より発足することになった。設立の歴史や性格も互いに異なる両学会が、ここにめでたく統合できたことは、日本の植物分類学・植物地理学の発展のためにも大変喜ばしい事である。

今年度は野外研修会が、東京大学大学院理学系研究科附属植物園長邑田仁氏のお世話で、7月20～22日、埼玉県秩父郡大滝村栃本にある東京大学農学部秩父演習林で実施されることになった。この行事は今まで植物分類地理学会で企画されてきたものであるが、そのまま新しい「日本植物分類学会」の野外研修会として実行されることになった。

ここで植物分類地理学会が1949年戦後の復活をとげて以来、伝統行事として永らく続いてきた野外活動に関係してきた一人として、野外研修会なるものをふりかえってみたい。

植物分類地理学会が1933年に設立されて以来、頭初は野外例会として行われていたようである。1933年4月27日、京都府宇治の喜撰山で実施されたのが最初で、飛騨中山七里(同年9月23-24日)、京都老坂方面(旧山陰道山城と丹波の国境、1934年5月27日)などの記録が残っている。

1943(昭和18)年、小泉源一博士遺暦記念号として植物分類地理(*Acta Phytotaxonomica et Geobotanica*)第13巻が刊行されて以来、戦争により学会の活動は中止されていたが、1949(昭和24)年9月に北村四郎博士らの努力によって植物分類地理第14巻1号が復活された。この年の10月30日に大山崎より善峰寺を経て向日町に至るコースで生薬学会と合同で植物採集会が行われた(植物分類地理14巻2号裏表紙内側に記録)。この頃から1989年まで、私が植物分類地理学会の庶務・会計を担当することになった。野外活動の一環として植物採集会という名目で、雑誌の復刊とともに再開された。戦争の為にあらゆる文化活動も低迷していた当時の人々にとって、野外に出て自然を相手に観察・研究する催しの復活は大変受けたようである。各地で自然の動植物を相手に、同好会や研究会も次々と復活した。これらの各地方の同好会や研究会の催しに講師を派遣してその活動を助け、学問の普及をはかり、健全な会の育成に寄与することも、特に植物分類地理学の発展のためには大切である。

兵庫県生物学会、近畿植物同好会、京都植物同好会、美作博物同好会、長野県植物研究会、山口生物学会、鳥取県生物学会、石川植物の会、じねんじょ会、岐阜県植物研究会、徳島県植物同好会、大江山自然愛好会などとの共催もしばしば企画された。

1977年頃から採集会という名前は時流にそわないし、学校関係や公的な研究機関からの出張も認めてもらえないので改めてはどうかという意見が会員の中から寄せられるようになり、1977年から採集会という催しは野外研究会という名称に変更された。しかし野外研究会という名前はちょっと堅苦しい。もっと従来のように気楽に一般の人達も参

加できる雰囲気の名前の上にもほしいという意向で、1984年頃から「野外研修会」という名称が用いられるようになった。

終戦後、植物分類地理学会が活動を再開した当初は、年に2-3回こうした野外活動が持たれていたが、企画や事前交渉に大変な労力が必要なことから1967年頃から年1回というのが定例化したようである。

最初から数えるとその回数は70回に達し、この野外研修会に参加して大変興味を持ち植物の研究を志したという方々も、現在第一線で活躍していらっしゃる研究者の中に何人かいらっしゃることや、この催しによって各地から集められた資料や標本の数も膨大な数に達し、日本の植物分類学・植物地理学の発展に大いに寄与していることと思われる。
(京都市 村田 源)

これまで行われた野外研修会の一覧 (ニュースレター編集部作成)

年	月日	場所	年	月日	場所
1933	4月27日	南山城、宇治の喜撰山	1960	7月2日	六甲山 - 有馬
1933	9月23-24日	飛騨中山七里	1960	10月15-16日	紀南小口郷
1934	5月27日	老坂方面(山城、旧山陰道)	1961	5月27-28日	香川県大滝山
1949	10月30日	大山崎 - 善峰寺 - 向日町	1961	8月25-26日	敦賀・永平寺方面
1951	5月21日	京都天王山 - 山崎	1962	5月6日	京都市花背 - 貴船
1951	8月25-28日	京都府美山町京大芦生演習林	1962	7月28-29日	岡山県蒜山方面
1951	9月23-24日	山城大悲山	1963	8月20-22日	三重県一志郡美杉村
1952	8月9-11日	兵庫県妙見山、氷ノ山	1964	4月29日	大阪府箕面勝尾寺方面
1953	5月3日	京都市大原方面	1964	8月22-23日	高知県長岡郡梶ヶ森
1954	5月2-4日	京都府美山町京大芦生演習林	1965	6月26-27日	兵庫県播州高原
1954	5月6日	六甲山	1965	8月24-26日	長野県菅平
1954	9月24日	南山城甘南備山	1966	5月14-15日	六甲 - 有馬
1955	4月30日 - 5月1日	伊勢藤原岳	1966	8月27-29日	静岡県阿部郡梅ヶ島
1955	8月23日	神戸甲山方面	1967	8月25-27日	新潟県北魚沼郡 - 駒ヶ岳方面
1955	9月24-25日	紀伊高野山	1968	5月8-9日	長野県木曾郡大桑村阿寺国有林
1956	5月5-6日	山城大悲山	1969	5月10-11日	富山郡婦負郡八尾町桐谷方面
1956	8月25-28日	三重県尾鷲付近	1970	10月10-11日	山口県長門峡・萩市笠山
1957	8月25-28日	大和弥山	1971	5月22-23日	岐阜県益田郡萩原町御前山
1957	9月22-23日	四国横倉山	1972	5月13-14日	兵庫県宍粟郡音水国有林
1958	5月10-11日	三重県御在所山	1973	5月26-27日	鳥取県八頭郡佐治村北谷方面
1958	8月7-9日	信州梓山十文字峠付近	1974	5月18-19日	小豆島寒霞溪
1959	5月10日	滋賀県比良蓬萊山、打見山	1975	5月17-18日	岐阜県東濃丘陵
1959	8月13-15日	徳島県剣山	1976	4月24-25日	岡山県新見市井倉付近

年	月日	場所	年	月日	場所
1977	5月22日	兵庫県箕谷付近	1989	5月12-14日	福島県西白河郡新甲子
1977	8月21-22日	富士山	1990	5月12-13日	滋賀県坂田郡伊吹山
1978	5月27-28日	京都府長老ヶ岳	1991	6月8-9日	金沢市医王山
1979	5月26-27日	兵庫県飾磨郡夢前町明神山	1992	5月9-10日	和歌山県新宮市高田
1980	5月3-4日	石川県宝立山	1993	5月29-30日	徳島県勝浦郡神山町雲早山
1981	5月9-10日	奈良県吉野郡大塔村赤谷	1994	5月13-15日	長崎県対馬竜良山
1982	8月21-23日	長崎県五島列島	1995	6月9-11日	栃木県上都賀郡足尾庚申山
1984	5月19-21日	新潟県南蒲原郡下田村光明山	1996	5月31日 - 6月2日	岐阜県中津川市恵那山
1985	8月7-9日	大分県由布山麓 - 英彦山	1997	8月1-3日	鹿児島県大隈半島
1986	5月16-18日	島根県隠岐の島	1998	6月6-7日	兵庫県城崎郡日高町
1987	8月9-11日	岐阜県根尾村・旧徳山村	1999	5月15-16日	京都府大江町大江山
1988	5月15日	兵庫県淡路島諭鶴羽山	2000	5月12-14日	沖縄県西表島

学会ロゴのお知らせ

ニュースレター担当幹事 西田佐知子

新学会が誕生して、学会のシンボルマークも一新しました。

トガクシソウ (トガクシショウマ)

Ranzania japonica (T. Ito) T. Ito



トガクシソウは、メギ科の多年草で、日本の特産植物です。日本人が初めてつけた学名を持つとされています。5月頃、ほんのり桃色がかった藤色の花を咲かせるところも、学会の誕生を祝ってくれているようではありませんか。今ではなかなかお目にかかれない貴重な花です。学会同様、その姿を大切に见守っていきたいものです。マークは、金沢大学の梅林正芳さんが考案してくださいました。

編集後記

とうとう新しい学会がスタートしました。ニュースレターもこの号から第一歩を踏み出します。試行錯誤しながら、楽しいニュースレターになるようがんばっていきたいと思います。和文誌とはちょっと違う、笑える話や楽しい情報をぜひお寄せください(和文誌が笑えない話や楽しくない情報を載せているということではありませんぞ)。

旧日本植物学会のニュースレター編集担当 根本智行さんからは「やっと役目が終わりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。連絡員の皆様、お疲れさまでした。(根本)」とのこと。これこれ、まだまだ手伝ってもらいますよ。連絡員だった方も、引退しないでどんどん連絡してください!

〒464-8601

名古屋市千種区不老町

名古屋大学博物館

西田佐知子

電話：052-789-5764 ファックス：052-789-5767

email: nishida@num.nagoya-u.ac.jp

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読申込などは下記へご連絡ください。

〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目

兵庫県立人と自然の博物館

植物分類地理学会 高橋 晃(会計幹事)

Phone 0795-59-2011, Fax 0795-59-2019

e-mail: takahasi@nat-museum.sanda.hyogo.jp

平成13(2001)年5月18日印刷

平成13(2001)年5月25日発行

編集兼 名古屋市千種区不老町

発行人 名古屋大学博物館

西田佐知子

発行所 三田市弥生が丘6丁目

兵庫県立人と自然の博物館

日本植物分類学会

郵便振替 00120-9-41247